

関東地区加盟校アンケート集計

東日本大震災の対応について

2011年3月11日に発生した東日本大震災、その後の原発事故などによる複合災害の中で、悲しみや苦しみの中にある多くの方々がおられます。被災した方々、被災した学校の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

広報委員会では2012年12月、関東地区の加盟各学校に、「東日本大震災対応に関するアンケート」を要請いたしました。

今回のアンケートは、震災の直撃を受けた東北地方から、少し距離は離れていましたが、震度5～6の強い揺れ、さらに交通網の麻痺による帰宅困難者が多く出た関東地区の同盟各校が、どのような対応をしたか、どのような問題点を感じたか、今後の対策をどのようにするかなどの参考になれば、との目的で実施しました。

今回の集計は体制の異なる大学、中高、小学校に分類して行いました。なお、校名は記載しておりません。ご質問等のある方は、教育同盟事務局にお問い合わせください。

今回のアンケートは回収率80%を超える結果となりました。ご協力を感謝致します。

(広報委員会)

関東地区 加盟44法人の95校対象

回答 小学校 21校中19校—90.5%
中学校 47校中38校—80.9%
大学 27校中21校—77.8%
全体 95校中78校—82.1%

①東日本大震災が起こった時(2011年3月11日(金)14:46)の学校の状況についてお尋ねします。

(1)学生・生徒・児童等は校地内にいましたか?

Table with 5 columns: 状況, 割合, 小学校, 中学校, 大学. Rows include いた, 10~29%, 30~49%, 50~69%, 70~89%, 90%以上, 割合不明, いなかった, 無回答, 合計.

(2)教員・職員は校地内にいましたか?

Table with 5 columns: 状況, 割合, 小学校, 中学校, 大学. Rows include いた, 10~29%, 30~49%, 50~69%, 70~89%, 90%以上, 割合不明, いなかった, 無回答, 合計.

(3)学校はどのような活動状況でしたか? (複数回答可)

Table with 4 columns: 活動, 小学校, 中学校, 大学. Rows include 通常の授業・講義, 他の活動—学校行事, クラブ(サークル), 委員会・生徒会, その他*, 下校途中, 下校後, 休校日.

*その他
小学校—卒業式準備、補習、面接、課外学習、終礼・掃除、等
中学校—定期試験、ホームルーム、答案返却日、補習、掃除、等
大学—ガイダンス、課外講座、入試、等

(4)学校において、生活に不可欠な「ライフライン」で止まったもの、不便になったものはありましたか?

Table with 4 columns: 施設, 小学校, 中学校, 大学. Rows include 電気, ガス, 水道, 電話, インターネット, その他*, 特になかった.

*その他
小学校—携帯電話
中学校—携帯電話、一斉配信システムに遅れ
大学—内線

(5)当時、校外で公認の活動をしている学生・生徒・児童等はいましたか?

Table with 4 columns: 活動, 小学校, 中学校, 大学. Rows include 学校行事, クラブ(サークル), 委員会・生徒会活動, その他, いなかった.

*学校行事
中学校—遠足70人、修学旅行400人、茶会30人
大学—ゼミ10人、卒業記念パーティー準備10人

*クラブ(サークル)
中学校—10、30、50人
大学—10、50、60、130、250、320、500人

*委員会・生徒会活動
中学校—25人

*その他
中学校—ロボットコンテスト5人、内容不明18人
大学—就職活動300人、学会4人

②震災当日の学校から保護者への連絡に関してお尋ねします。

連絡はしましたか? その手段を効果と併せて回答ください。

○:有効 △:やや難あり ×:無効 —:不明

Table with 5 columns: 手段, 小学校, 中学校, 大学. Rows include 電話, メール, ホームページ, 伝言ダイヤル, その他*, できなかった, できないと判断した.

*その他
中学校—テレビ安否情報(—)、ファックス(○)、緊急連絡用携帯サイト(△)、学校連絡網システム(△)、生徒に携帯で連絡させた(2件)
大学—独自の安否確認システム(○)

③震災当日の学校における宿泊者の有無、及び対応についてお尋ねします。

(1)3月11日の夜に学校に泊まることになった学生・生徒・児童等はいましたか?

Table with 5 columns: 状況, 割合, 小学校, 中学校, 大学. Rows include いた, 10~29%, 30~49%, 50~69%, 70~89%, 90%以上, 割合不明, いなかった, 無回答, 合計.

*割合不明 大学—200人、1200人

(2)3月11日の夜に学校に泊まることになった教員・職員等はいましたか?

(6面につづく)

(7面からつづく)

	小学校	中学校	大学
いた	5 26.3%	4 10.5%	4 19.0%
10~29%	3 15.8%	5 13.2%	6 28.6%
30~49%	1 5.3%	5 13.2%	1 4.8%
50~69%	0 0.0%	6 15.8%	0 0.0%
70~89%	0 0.0%	5 13.2%	0 0.0%
90%以上	1 5.3%	6 15.8%	0 0.0%
割合不明*	0 0.0%	0 0.0%	2 9.5%
いなかった	8 42.1%	6 15.8%	7 33.3%
無回答	1 5.3%	1 2.6%	1 4.8%
合計	19	38	21

*割合不明
大学—100人、300人

(3) 3月11日の夜に学校に泊まることになった学生・生徒・児童等の家族はいましたか?

	小学校	中学校	大学
いた	6 31.6%	11 28.9%	0 0.0%
いなかった	12 63.2%	27 71.1%	20 95.2%
無回答	1 5.3%	0 0.0%	1 4.8%
合計	19	38	21

*小学校—2、3、4、10、20人
中学校—2、4、5~6、10、30、50人

(4) 3月11日の夜に学校に泊まることになった卒業生等の学校関係者はいましたか?

	小学校	中学校	大学
いた	0 0.0%	14 36.8%	2 9.5%
いなかった	18 94.7%	24 63.2%	19 90.5%
無回答	1 5.3%	0 0.0%	0 0.0%
合計	19	38	21

*中学校—2、3、5~6、10、20人、不明
大学—人数不明

(5) 3月11日の夜に学校に泊まることになった上記以外の方(近隣の方や帰宅困難者等)はいましたか?

	小学校	中学校	大学
いた	2 10.5%	4 10.5%	5 23.8%
いなかった	16 84.2%	34 89.5%	14 66.7%
無回答	1 5.3%	0 0.0%	2 9.5%
合計	19	38	21

*小学校—2、15人
中学校—1、5、10、52人
大学—1、5、70、1200、3300、6000人

(6) 食事は?

	小学校	中学校	大学	
備蓄食糧	米飯類	4	6	4
	パン類	1	5	0
	麺類	0	3	0
	カンパン・ビスケット類	9	18	5
	飲料類	8	16	9
その他*1	3	5	1	
買い出し	米飯類	6	11	1
	パン類	4	9	1
	麺類	3	3	1
	カンパン・ビスケット類	0	1	0
	飲料類	4	5	0
その他*2	1	3	0	
配達	米飯類	0	4	1
	パン類	0	0	0
	麺類	0	0	0
	カンパン・ビスケット類	0	0	0
	飲料類	0	0	0
その他*3	0	2	0	

*その他1 小学校—畑の大根、缶詰、食堂のカレーライス
中学校—非常食、差入、大学食堂在庫食料、自宅貯蔵品、シチュー
大学—菓子類
*その他2 小学校—菓子類
中学校—副食、牛乳、菓子類
*その他3 中学校—学食でおにぎりを全員配付、系列校からの支援物資

(7) 宿泊室とした場所は?

	小学校	中学校	大学
教室	4	16	4
体育館	0	4	6
講堂	1	4	3
集会室等	3	8	3
その他*	8	5	6

*その他
小学校—図書室、音楽室、保健室、応接室、教員・職員室、調理室、幼稚園
中学校—寮、応接室、職員室、会議室、自習室
大学—宿泊施設、ラウンジ、学生寮、教職員住宅、礼拝堂、附属幼稚園

※部屋割りで特に気をつけたことがあればお書きください。

小学校

- ・男女別、高学年・低学年別に部屋割り。
- ・児童は絨毯の敷いてある部屋に。

中学校

- ・部屋ごと、階ごとに分ける—男女別、学年別、クラス別、クラブ別、等。
- ・少人数の教員でも生徒全体も様子が把握できること。
- ・プライバシーの確保、火災予防、衛生管理、寒さ対策(暖房、簡易寝袋配付)。
- ・床でなくカーペットの敷いてある部屋に。

大学

- ・男女別の部屋割り、安全性。
- ・病人、小児等については別の部屋を設けた。

(8) 教員・職員等以外の宿泊者の中で最後の人が帰宅したのはおおよそ何時頃でしたか?

	小学校	中学校	大学
3月12日 午前中	11	6	5
12時~17時	4	5	6
18時以降	0	1	0
その他*	0	1	0

*その他 5日後(長期化を予測し食糧・エネルギー共有の点から集団生活を選択)

(9) 在校生の宿泊対応を経験して、今後に生かせることがあれば教えてください。

小学校

- ・スクールバスは電灯も暖房も使えて有効だった。
- ・アルミブランケットを備えていたが今年度からシュラフに変更した。
- ・一部の教職員に負担が集中しないように役割分担を決めておく。
- ・無理に帰ろうとしない。
- ・床に敷く体育マットが重かったので、軽量マットを備蓄した。

(5面につづく)

わが校の ワンポイント アピール

歴史の中での教育

大阪YMCA
(YMCA学院高等学校)



本校は大阪YMCAが設立いたしました単位制・通信制・総合学科の高等学校です。YMCAとは「Young Men's Christian Association」の頭文字から成り、和名では「キリスト教青年会」と呼びます。その歴史は1844年英国ロンドンで誕生しました。イギリス産業革命の中、若い世代の仲間達の人格成長と生活改善を願う12人の青年達の「志の結集」がその始まりでした。彼らの働きが多くの若者達の共感を呼び起こし、国境を越えて今日のYMCA運動にまで発展しました。現在では世界125の国と地域でおよそ4500万人の会員がYMCAの活動にかかわっています。日本では1880年に東京で始まり、現在では北海道から沖縄まで188の拠点で約10万人の会員とともに活動を行っています。大阪YMCAは1882年に始まり、本校はこれまでの長い歴史において大阪YMCAが取り組んできた環境教育や、野外活動、体育活動などの社会教育活動の他、国際



高校校舎

協力活動や地域奉仕活動で培った多くの経験と技術を総合専門科目に取り入れ、参加体験型と自発的な取り組みを重視した教育を展開しています。本校に在籍されている生徒さんは、年齢や背景など様々です。中学から来られる方、他の高校から転校されてくる方、高校を一度退学したがもう一度やり直そうとしている方など、いろいろな理由で入学されます。本校は、昨年創立10周年を迎え6月には記念会を行いました。卒業生が共に本校に集まり、様々な催しを通して、新しい出会いをしてくれました。また、大阪YMCAも昨年創立130周年を迎えました。この記念すべき時に、YMCAが始まった12人の若者達の理念にもう一度立ち返り、知性・精神・身体のパランスをとれた人間育成をめざす教育をすすめていきたいと考えています。古田敏洋 <YMCA学院高等学校教諭>

(6面からつづく)

【中学校】

- ・トイレ用にプールの水、井戸の水を活用。飲料用に防災井戸を設置。
- ・教職員の指示の組織の確認。
- ・発電機の購入。
- ・保護者との連絡手段の確保、生徒引き渡しカードの作成。
- ・情報伝達方法のさらなる工夫。
- ・ライフライン停止時の対策を早急に検討。
- ・被災時のセキュリティ対策。
- ・ランタン、フェイスオールの備蓄が役立った。
- ・教職員のシフトの検討、チームワークの大切さ。
- ・生徒の就寝位置を確認せず、夜中の保護者への引き渡しに手間取った。
- ・非常食は温かいもの、寝具は寝袋が有効。生徒にペンライトやマグカップを各自用意させる。
- ・同一キャンパス内に法人や大学がある場合、その連絡や協力態勢の見直し。
- ・食糧、飲料水、寝具等の確保。
- ・床で寝る場合のためにエアーマットを生徒分用意。

【大学】

- ・在校生を避難者とせず、「動ける若い協力者」(戦力)として一緒に災害時対応に当たったこと。
- ・食糧、飲料水、寝具、防寒具等の確保。
- ・停電時の対応
- ・安否システムの構築。
- ・現場災害対策本部体制の早期確立、情報共有化の確立、マニュアル化。

4①(1)で「いた」と答えた場合に、震災当日の、学生・生徒・児童等の校地からの帰宅についてお尋ねします。

- (1)貴校では震災当日に組織的な形で学生・生徒・児童等の帰宅対応を行いましたか？
- ※「組織的な形で」とは一帰宅させるに当たって教職員の側で帰宅する者をチェックしたり、その為の係を置くなどのことです。保護者の迎えを受付ける係、連絡を取り次ぐ係、等の担当を決めて対応した事を指します。

	小学校	中学校	大学
組織的な形で行った	9 47.4%	30 78.9%	9 42.9%
特に組織的な形では行っていない	3 15.8%	3 7.9%	10 47.6%
その他	1 5.3%	1 2.6%	0 0.0%
(いなかった)	6 31.6%	4 10.5%	2 9.5%
合計	19	38	21

*その他 下校後、春休み

(2)帰宅を許可する基準はありましたか？ (複数回答可)

	小学校	中学校	大学
迎えに来てもらった場合に許可	12	27	2
家族と連絡が取れば許可	1	9	1
徒歩帰宅ができるならば許可	2	17	5
複数人で帰宅するならば許可	0	1	2
申し出があり大丈夫そうならば許可	1	2	4
その他*	0	4	3
特になかった	1	1	11

*その他

- 中高校一・申し出があり、別の保護者とともに帰宅できるならば許可。
- ・公用車で数名送った。
- ・迎えに来た方に同乗して送り届けてもらえる場合許可。
- ・市内の親戚や友人宅に泊まれる場合許可。
- 大学一・遠方の学生は職員が送った。
- ・帰宅不能者は正規公共避難場へ誘導。

・交通機関の安全が確認されたら許可。

(3)組織的な形での在校生の帰宅対応を経験して、今後に生かせることがあれば教えてください。

【小学校】

- ・慌てず一人ひとり正確にすること。
- ・対応の詳細記録を残す必要がある。
- ・保護者自身の安全を確保してから迎えに来るように伝える。
- ・引き取り訓練の実施。

【中高校】

- ・充実した名簿や、引き渡しカードの作成。
- ・指揮系統の一体化、明確化が必要。
- ・夜の保護者の迎えには困難な面があり、朝になってからの方が良い。
- ・当日夜は保護者の迎え有りの場合帰宅許可。翌日は交通機関回復の段階で高校生は生徒のみで帰宅、中学生は保護者の迎えが必要。玄関で親・生徒の出入りをチェック。
- ・登下校中の被災の場合(特に交通機関使用中等)の処し方について安全教育に取り入れたい。
- ・遠方から徒歩で迎えにきた保護者がいた。交通機関の回復を待つよう知らせても良かった。
- ・生徒の生活環境等日頃からの情報収集が必要。
- ・普段からの教職員のチームワークや個人への責任感が大切。
- ・緊急時の対応を各家庭で取り決めし学校と共有しておく。
- ・緊急時における帰宅対応の組織的な動きをマニュアル化しておく。

【大学】

- ・帰宅対応の基準作りが必要。
- ・交通機関が再開しても混乱も多く、安全確認ができるまでは学生を校内に留める。
- ・キャンパス内の安全確保(耐震化等)、最低限のライフラインの確保(非常用電源設備等)、情報発信手段の確保等が重要。

5)帰宅困難者や近隣住民等(以下「学校関係者以外の人」と呼ぶ)の、学校における受け入れについてお尋ねします。

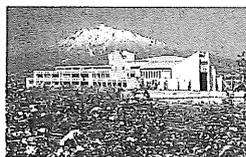
(この場合の「受け入れ」とは宿泊者の受け入れとは限りません。一時的な受け入れも含みます。)

(1)校地は、行政による「災害時指定避難場所」になっていますか？

	小学校	中学校	大学
なっている	6 31.6%	16 42.1%	10 47.6%
なっていない	10 52.6%	19 50.0%	11 52.4%
無回答	3 15.8%	3 7.9%	0 0.0%
合計	19	38	21

(2)「学校関係者以外の人」を校地内に受け入れる事態はありましたか？最後の人が帰宅したのは何時頃でしたか？

(4面につづく)



岩木山を背に

数多くの一人たちは、



旧外人教師館

わが校の ワンポイント アピール

東奥義塾の 財産

東奥義塾は昨年創立140周年を迎えることができました。この時を迎えるにあたり、これまで支え、導いてくださった生なる皆様、に感謝いたします。

津軽藩校「種古館」を前身とする本校は、1872年の開校以来、多くの財産と呼べるものが存在します。その中で今回紹介するのは「人」です。津軽の言葉では「我々」を「わんご」といふ言葉で表現します。東奥義塾を「わんごの義塾」「我々の義塾」と呼び、わんごの義塾として愛し、誇りに思っている一人一人は、

来、英学を奨励し、アメリカ人宣教師が招かれた。そこで聖書と出会い、洗礼を受けた塾生たちは、弘前近隣地域に福音を伝え、津軽地域のキリスト教伝道に大きく貢献したのです。

開学以来様々な歩みを経て、近隣地域の人々や、常に祈りを捧げてきた東奥義塾を支えてきた。その中で、現場で生徒一人一人と向き合い、支え続ける教職員であり、様々な困難の中にあっても母性を愛し続ける卒業生にもあります。それだけでなく、近隣地域の人々や、常に祈りを捧げてきた東奥義塾の新たな歩み、多くの方々によって支えられ、何より主の御心によって正しく導かれることを切に願っています。

阿部義也
〈東奥義塾高等学校 教主事〉

えましたが、それはゴールではありません。むしろわんごの義塾を愛し、支え続ける「人」と共に、新たなスタート地点に立つたのだと思います。

東奥義塾の新たな歩み、多くの方々によって支えられ、何より主の御心によって正しく導かれることを切に願っています。

(5面からつづく)

	小学校	中学校	大学
あった	1 5.3%	4 10.5%	6 28.6%
なかった	16 84.2%	30 78.9%	14 66.7%
無回答	2 10.5%	4 10.5%	1 4.8%
計	19	38	21

* 小学校—2人

中学校—1、5~6人、200人

大学—5、30、100、1200、3300、8000人

☆帰宅時間—3月11日17時頃、12日10時、12時頃

(3)今後、「学校関係者以外の人」を校地内に受け入れる事態が生じた場合どのように対処するか、学校内で対応の目安を確認しましたか？

	小学校	中学校	大学
確認した	12 63.2%	25 65.8%	14 66.7%
確認していない	5 26.3%	12 31.6%	7 33.3%
無回答	2 10.5%	1 2.6%	0 0.0%
合計	19	38	21

上記質問で「確認した」と答えた場合にお尋ねします。学校としての対応の目安はどのようなものですか？ 回答を選んだ上で、そのような確認に至った理由、対応の仕方等をお書きください。

	小学校	中学校	大学
基本的に受け入れる	3 25.0%	6 24.0%	8 57.1%

- ・一時避難場所として。
- ・場所は限定する。
- ・自治体の要請による。
- ・できる限り対応する。

	小学校	中学校	大学
条件付き、限定付きで受け入れる	6 50.0%	16 64.0%	6 42.9%

- ・職員がいる時等対応条件が整っている時。
- ・児童・生徒とは別の場所を開放する。
- ・体育館で受け入れる。備蓄食糧に余裕がある時は配付する。
- ・行政から要請があった場合のみ指定場所を使用する。
- ・授業中は受け入れが困難。
- ・関係者の生活環境が確保できることが前提。
- ・グラウンド等建物外可。

わが校の ワンポイント アピール

新島裏の教育精神を 受け継ぐ学園



中高フリースクール

新島学園

「教育五原則」を礎に人格教育に邁進し、特に新島裏先生が目指した「良心が全身に溢れ、自ら立ち、自ら治める人物」の育成に努めています。

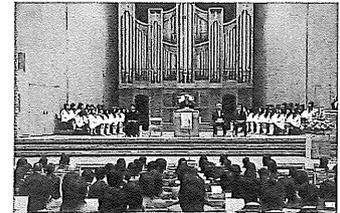
また、新島学園短期大学は高等教育を目指して1983年4月に創立され、今年30年を迎えます。新島裏先生の目指した教育の理想とキリスト教主義による教育を建学の精神として、「真理・正義・平和を教育モットーに掲げ、地域に貢献する人材を育て、特色ある短大として信頼を築いています。

折しも今年、NHKの大河ドラマ「新島義経」が放送され、大々的に「八重の松」が放送されております。改めて、新島裏と八重の松の生き方と精神に多くの方が影響を受けるのではないかと期待しています。その新島裏先生の教育精神を受け継ぐ学園として新島の

2013年5月に新島学園中学校・高等学校は創立66周年を迎えます。同志社を創立した新島裏先生ゆかりの地・安中、碓氷川の河畔で1947年5月に産声を上げて以来、先達の熱い思いとひたむきな努力、そして関係者の格別のご支援により、66年という歴史を刻んできました。

その間、一貫して建学の精神である「教育五原則」を礎に人格教育に邁進し、特に新島裏先生が目指した「良心が全身に溢れ、自ら立ち、自ら治める人物」の育成に努めています。

また、新島学園短期大学は高等教育を目指して1983年4月に創立され、今年30年を迎えます。新島裏先生の目指した教育の理想とキリスト教主義による教育を建学の精神として、「真理・正義・平和を教育モットーに掲げ、地域に貢献する人材を育て、特色ある短大として信頼を築いています。



中高礼拝堂

- 1 キリスト教精神を教育の基とする
- 2 一人ひとりの生徒を愛し、その人格を重んずる
- 3 知識水準を高くし、勉学の喜びを教える
- 4 勤労を尊び天然資源の利用を学ぶ
- 5 己を知り、国を愛し、隣人に仕え、世界を友とする心を養う

〈新島学園法人事務局長〉 大木直之

- ・高校生以下、障がい者等対象を限定。
- ・受け入れ期間は一週間とする。

	小学校	中学校	大学
基本的に受け入れない	3 25.0%	3 12.0%	0 0.0%

- ・近隣の公立学校が避難場所に指定されている。
- ・本校生徒の安全確保が第一。
- ・公機関や所属法人からの要請は検討・対応する。

⑥その他、学校内で確認したこと、改善したこと、広く同盟各校が共有した方がよいこと等がありましたら教えてください。

小学校

- ・登下校中に交通機関で災害に遭った場合、各社に何らかの協力態勢を要請したい。
- ・震災マニュアルの抜本的改訂、緊急用備蓄品の確認と追加。
- ・連絡手段としてのモバイルメールはほとんど

ど無効だったのでホームページで保護者に状況を知らせた。

- ・低学年でも説明ができるような「連絡カード」を作成し携帯させている。
- ・加盟校が被災地から学んだことをお返りする活動（長期にわたる援助活動）ができることを願う。
- ・教師が分散して指導にあたったことからトランシーバーを購入し、その後の避難訓練等で有効に使用。保護者に向けての一斉メール配信が功を奏した。児童に事実を正確に伝え、状況を子どもたちと共有することへの配慮を教師間の共通認識とした。

中学校

- ・太陽光発電による蓄電装置により、事務室に非常電源を設置した。
- ・備蓄食糧では米飯類（5年保存）、缶詰のパン等が生徒に喜ばれた。
- ・防災マニュアルの改訂。
- ・保護者代表に防災・防犯委員会に参加して

(3面につづく)



長谷川保



聖隷クリーニング店

私達の学園は「クリーニング屋から始まった学園」ということを、学園の大学新入生すべては二冊の本知らされています。その本は『夜もひるのように輝く』です。この本を読んで感動しない者はいない、と言われるほどのものです。

著者の長谷川保は、数名のクリスチャン青年とともに、1986年に、「困っている人々を助けよう」として、「聖隷クリーニング店」を始めました。社名はもともと神の祝福として働こうというところから来ています。給料は一銭ももらわず、収益によって共同生活をしました。最初の仕事は行き倒れの男の葬式をしてあげることでした。困っている人々のためなら何でもしました。やがて当時「死の病」として恐れられていた結核患者を収容しました。全国から行き場を失った結核患者がやってきました。クリスチャン・ワーカーたちは献身的に看護し、患者たちを天国に送りました。

戦中も戦後も彼らの活動は黙々と続きました。戦後、社会が安定し、制度が整えられるまで、奉仕者たちの無給の働きは続きました。そこには喜びがあり、明るさがあり、涙ぐましい努力がありました。学校を作ろうとして聖隷学園ができたのは、人々のために看護の学校を求めに、学校が作られました。このような聖隷の実学精神が学園の校風に今なお色濃く残っています。

鈴木重臣
〈聖隷学園宗家主任〉

わが校の ワンポイント アピール

クリーニング屋から 始まった学園 聖隷学園



大正校舎

(4面からつづく)

もらうことにした。

- AEDは全教職員がいつでも使用できるよう講習を受けると良い。
- 帰宅困難の場合、近くの加盟校に受け入れってもらう等、互いに支援できると良い。
- 避難訓練は形骸化しやすいが、災害や緊急時を憶えて停電、断水等具体的な制限を想定して訓練すると良い。
- 当日は停電の上に一般電話の繋がりも悪く、さらに高校1年が修学旅行で沖縄からの機中に羽田空港が閉鎖になり、国交省の指示で沖縄に戻され、留守役の教職員は対応に苦慮した。災害時に連絡のとりやすいシステムとして携帯による一斉メール送信がどこでも可能な「スクールアイネット」を取り入れた。
- ホームルーム内のヘルメットはコンパクトに収納可能な「タタメット」に変更した。
- 直接的相互支援の対象として、まず加盟校間の連携を尊重したい。
- 緊急地震速報を全校放送できるように受信機を設置した。
- 全校生徒に震災当日の状況等に関するアンケートを実施した。
- 「防災カード」を生徒に配付・携帯させているが、通学経路、通学途中の緊急避難場所、保護者の連絡先・方法、保護者と落ち合う場所等を追加した。
- ホワイトボードに状況を記入し、共有する。学校泊の生徒名簿を各教室扉に貼り付ける。伝達内容は文書で統一すること。
- 「災害等緊急時生徒連絡票」に保護者宅以外に生徒を保護してくださる家庭(在校の友人宅含む)の記入欄を加えた。
- 備蓄品に食糧の他に保健健康・衛生用品等を加えた。
- 管理職不在時の指揮指令、連絡系統の明確化とその指示を校内で行った。
- 勤務員に防災関係の講習受講を勧め、「防災士」認定教職員を増やす等防災についての意識を高めるようにしている。
- 新校舎の自習室床下ピットを利用し、全校生の災害用トイレを設置。雨水を備蓄して飲料・雑用水として利用できる設備を設置。各教室分のランタンを用意した。雑用水を飲料に変える水筒を購入予定。

- 登下校中の安全確保についての対策を加盟校間で共有できると良い。
- 防災担当者だけでなく、教職員全員が防災用品・食糧等の保管場所・鍵の所存等を周知しておく。休日のクラブ活動等での被災の場合は、その場にいる教員で判断・対応することを全員が自覚しておく。

大学

- 備蓄倉庫の設置、整備、位置および備蓄品の確認。
- 防災マニュアルの作成・改訂、配布。災害対策組織の再構成。
- 防災訓練の実施、消防計画・地震防災計画の再確認。避難場所・経路を確認。
- 停電時でも使用できるトイレへ改修。
- 校外活動届け提出の徹底化。
- 衛星電話の導入。安否報告専用ダイヤルの設置。
- 災害時用キャンパス名簿の作成。
- 教職員はどんな時でも状況を把握し、その場にいる人員で組織的に動けるよう心がける。

アンケート結果についての考察

野村正宣
 <東洋英和女学院中学部・高等部教諭、教育同盟広報委員>

年度末近く・(金)・午後という状況の中で

2011年3月11日(金)14:46という日時が学校の営みの中でどのような日時だったのかを設問1の結果が示している。年度末に近い日にちと、午後になって少し経っていたこともあってか、在籍者の90%以上の学生・生徒・児童が校地内にいたという学校は少ないが、小学校と中学校の中にはそうしたほぼ全在籍者が校地内にいたという学校も実際見られた。在籍者のほぼ全員が校地内にいる時に地震が発生したらどう対応するのかも確認する必要がある。1(3)からは通常の授業・講義以外の事での活動中だったものが多く見られ、そうした活動単位の対応、連絡、統制等が行われていたと想像する。また、小中高では下校途中、下校後だった件数も少なくなく、児童・生徒が学校から散じた後の独自の動き、判断の面で今後の指導の必要を迫られたことと思う。併せて1(5)に見るように

中高・大学では校外での公認の活動をしている可能性は時期に関係なくあると考えれば、引率あり・なしの別はあるものの「学校から切り離されたところでの公認活動中」の対応、連絡はどうするのか考えておかなければならない。沖縄への修学旅行からの帰途に震災が起きて羽田空港が閉鎖となり、沖縄に戻された加盟校の苦慮を思う。他方、学校においてライフラインで止まったもの、不便になったものに関しては「電話が通じにくい」がやや多いものの、「特になかった」も案外多い。こうしたライフラインのストップよりも交通機関のストップの方が顕著であったようにも思う。

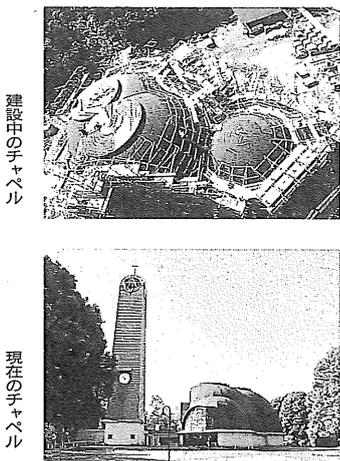
電話・メール・ホームページは有効か?

設問2の震災当日の学校から保護者への連絡に関しては、小中高で特にその必要を認識し試みた様子が窺える。電話・メール・ホームページでの連絡が多いが、その手段としての有効性、迅速性は必ずしも高いとは言えない。電話のつながりにくさ、メールの大幅に遅れての着信は記憶に新しい。そうした「やや難あり」を承知の上でそれらに頼らざるを得ないのが現状であろうか。伝言ダイヤルをはじめ、オルタナティブな(取って代わるもう一つの)、迅速で確実な連絡手段を模索する必要がありそうである。

宿泊対応の経験で分かってきたこと

設問3では学校における宿泊者の有無、及びその対応について尋ねた。(1)からは、小学校と大学では宿泊者がいても少数で、「いなかった」も多いのに対し、中高では宿泊者がいたのは66%にのぼる。ただ、中高でも在籍者の70%を越えての高割合・多人数の宿泊対応をしたところはなく、そうした70%超の高割合・多人数の宿泊対応は関東地区では未体験で未知の領域と言える。児童・生徒・学生以外に宿泊した人として保護者、卒業生、近隣の住民等の有無を尋ねたところ、大学では保護者はいなかったようだが、それ以外は小中高大共に若干の「在籍生以外の方」が一緒に宿泊したようである。近隣の住民等を宿泊者として受け入れたのは大学の方に散見され、その受け入れ規模の大きいものも見られた。食糧としては、備蓄食糧では「カンパン・ビスケット類」、買い出しで「米飯」「パン類」が増えてくる。備蓄スペースのことを考え

(2面につづく)



建設中のチャペル

現在のチャペル

わが校の
**ワンポイント
 アピール**
 チャペル—教会と社会に
 仕える者としてのスタート地点
 東京キリスト教学園(東京基督教大学)

東京基督教大学のチャペルには、スレッドラフス(ある織物)が設計された。設計当時、磯崎氏が本学理事に「チャペルの中心は何か」と尋ねられたところ、理事は「世界にわたって行ききつての道らたものに福音を宣べ伝えたい。マルコ16:15」と書かれたものとして設計された。三つの不完全な球体からなるドーム型のチャペルで、不完全な世界において、完全な「神のことば」が語られるというコンセプトです。また、チャペル内部の天井には二つの円が分かれて設えられており、双方が講壇後ろの十字架に向かうようにデザインされています。これは、分断されている学びに向かい、また「この世」と「天の御国」が、やがて十字架によって和解され一つに導かれていくことを意味しています。

チャペルエントラン

〈東京基督教大学学長〉



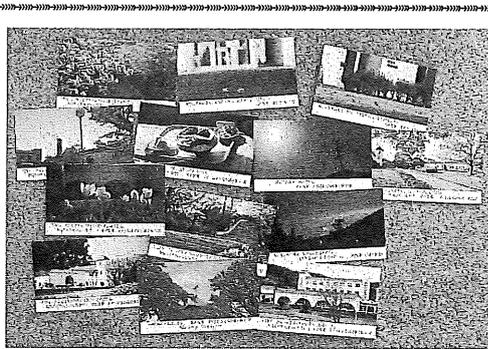
神学校章創期

(3面からつづく)

れば当然の結果だっただろう。今後もこのままでよいのかは検討の余地がありそうである。配達はほとんど無理だった様子であり、買い出しも物流がストップすれば時間が経つほど無理になることが想定される。(7)で宿泊室を尋ねたが、教室のような部屋で比較的少人数毎に部屋割りするのか、体育館・講堂・集会室のように大人数で部屋割りするのかは、季節、宿泊装備、管理のしやすさ等によって判断が分かれるものであろう。(8)では、宿泊対応がいつまで続いたかを尋ねたところ、翌12日(土)の夜まで続いた学校はあまりなかったが、もし交通遮断が広域的に長期化した場合はこの限りでなく、もう一泊などということも出てくるであろう。小中高の先生方からは度々聞いた声だが、無理の中で震災当日のうちに帰宅させたり、保護者に迎えに来てもらうよりは、宿泊させた方が賢明との考え方もあろう。

何が何でも「少しでも早い帰宅」か？

設問4では震災当日の交通が遮断されている中での在校生の帰宅対応について尋ねた。(1)で組織的な形(迎えに来る方の受け付けや帰宅していく者のチェック等の係を置いて対応するなどの事)で対応したかについては、中高では組織的な対応が多く見られた。校地内にいた生徒の人数も多く、大学生ほど自己判断で動いてもらうわけにもいかない点からのことでもあろう。(2)の帰宅の許可の基準の違いを見てもそれが分かる。迎えに来る保護者の受け付け、及び該当生徒の帰宅が深夜から明け方まで断続的に続いたと予測されるが、その場合、交替制で対応教員は夜通し起きていなければならず、それよりは朝になってからの対応の方がよい、といった(3)に見られる声は今後に生かすべき声であろう。「少しでも早い帰宅」というのは保護者にとっては切なる願いでもあろうが、宿泊の方の有効性も併せて考えていく中で、「何が何でも『少しでも早い帰宅』か?」という問い直しもまた必要であるように感じた。



名刺裏面

わが校の ワンポイント アピール

ミッション共有を
目指して
三育学院

ある新入生が三育学院を次のように紹介してくれました。「私は、千葉県にある三育学院大学の看護学科で学んでいます。自然豊かなキャンパスで、とても心が和みます。少人数制で、学生の間が密で、生活しています。家族のような愛に溢れた学校が好きです！こんなに温かい学校で看護を学ぶことに幸せを感じています。」

人生で大切なものを伝えられる教育、知識や技術の修得を超えた教育理念や目標として掲げている学校が数多くあります。三育学院も「全人教育」を標榜し「No More Books, No More Motives」としています。授業と共にキャンパスライフ全般を通して、また学生と接する全教職員一人ひとりの言や対応を通して、人生で大切なことを伝えたいと願っています。

しかし、学生たちのために役立たないという思いながらも、実際は模範の毎日です。宗教教育、学業教育、労働教育、伝統として受け継がれてきた美徳の仕組み、時代にあわせて再構築することも大きな課題です。そこでひとつの小さな取り組みを始めました。「一人にしてもらった」と思ふこと何よりも、あなたたちが人にならぬこと何よりも、言葉を私たちがのびのびと行動規範として再確認し、いつもこの「相手の立場に立つて尽くすこと」を心に留めずめカードを作りました。一人普通の名刺で、裏面に三育学院おなじみ写真と書留の裏面が印刷されています。普段の名刺交換が「ミッション」の共有を願っています。山口伊作 三育学院大学副学部長

確認しておく必要があるのでは？

設問5では帰宅困難者や近隣住民等の一時避難の受け入れについての実態と今後の方針を尋ねた。やはり小中高では学校関係者以外の人校地内受け入れは僅かであったが、大学では少なくなく、今後もそうした受け入れの対応が期待されるのではないとも思われる。実際、キャンパス内に3300人や8000人の人々を受け入れた学校があり、その不特定多数の人々への対応は様々な点で大変であったのではと拝察する。学校という人間の教育と尊厳性に関わりを持つ機関、とりわけ「キリスト教学校」として社会の中に立ち続けるならば、可能な限り困っている人を基本的に受けとめていく必要はあるし、それが求められてもいるのだろう。しかし、小中高となるとその学校の構成、おかれている状

況、環境、様々な要因によって判断は分かれるものと思う。ただ、各学校が今後このような震災等で帰宅困難者、避難者が一時避難を求めた際にどのように対処するのか、そう対処するのは何故か、受け入れるならばどのような条件の下で受け入れるのか、等を学内で確認しておく必要は少なくともあるのではないかと思う。その点から言えば(3)で「確認していない」「無回答」を合わせると小中高大すべてで30%を超えるのが気になることである。東北、関東の地区に限ったことではない。全ての学校で確認しておく点ではないだろうか。

教育同盟の展望の片鱗が仄見えた

設問6では広く同盟各校が共有した方がよいことを寄せていただいた。多くの教訓、改善点が挙がっていて参考になる。その中で展望として加盟校間の連携を願う意見が目立った。加盟校間で様々なケースにおける相互受け入れは可能か?という問いを投げかけているのと思った。例えばこんなケースを思い浮かべさせられた。帰宅難民状態に陥った時、丁度近くにキリスト教学校教育同盟の加盟校があったので一時避難場所として助けを求めた。——学校側はどうするか?躊躇せず受け入れたらよいだろうと思う。一人の生徒であっても、或いは、引率教員を含む総勢50人の集団であっても。次の場合はどうだろうか。ある加盟校の大学が講義を続けられないほどの大損害に見舞われた。学ぶ場を失って途方に暮れた大学生が別の土地の加盟校の当該科目の講義を履修して単位を修得したいと願っている。可能だろうか?可能でなければ障壁となっているのは何だろうか? 実際このような大災害時の互助的な相互履修関係を結ぼうとしている大学のグループもあると聞く。そうした困った際の互助的な関係をいつでも結べる、或いは結ぼうという態勢でいることこそ、この同盟の加盟校であることの実質的な意義の一つである筈だし、そうあってほしいと願う次第である。この先のキリスト教学校教育同盟の目指すべき展望の片鱗が仄見えているように思った。

わが校の ワンポイント アピール

保育紙芝居で
大きな成果

(名古屋柳城短期大学)

集・整理・保存・教材
開発・普及・出版等に
努めてきた。この
ほかに、紙芝居の美演
会・フォーラム、アン
タル化とインターネット
での公開、全国の予
どもたち対象の創作紙
芝居の募集・表彰を行
い、新聞やTVでもい
く度か取り上げられま
した。所蔵する紙芝居
は教材としてだけでなく、幼稚園や保育園で
現役の保育者のみなさんにも利用していただ
いております。今では
全国の保育関係者から、ときに外国からも問い合わせをいた
すなど、大きな成果を
上げるに至りました。
紙芝居は静画である
がゆえに子どもたちに

た教育的財産です。本
学がやがて近い将来
「紙芝居のメッカ」と
して保育界に貢献でき
るようプロジェクト
のさらなる発展を目指
して取り組んでいきたく
と思っています。
新海英行
(名古屋柳城短期大学
学長)

名古柳城短期大学は、1988(明治51)年、カトリックの宣教師マーガレット・ヤング(Margaret M. Young)先生によって創設され、「愛をもって仕えよ」という建学の精神のもと幼稚園教育と保育の養成に専念してきました。

さて、本学では、紙芝居が日本の伝統的な子ども文化であるだけでなく、保育養成にとつて貴重な教材であると考え、「子ども文化」と紙芝居プロジェクトという大テーマのもと、とりわけ幼児向け紙芝居の研究・収



キッズ紙芝居表紙式にて

韓国基督教学校聯盟 第50回総会

大田で開催される

1月14日から16日まで韓国・大田(ダジュン)市で開催された韓国基督教学校聯盟総会に、佐藤東洋士教育同盟理事長と事務局主任が表敬訪問した。昨年6月に韓国基督教学校聯盟から「白永哲(ベク・ヨンチュル)理事長(安料善・アン・ドゥスン)事務総長」キリスト教学校教育同盟の総会に参加された。例年、相互に代表者が訪問し、互いの理解を深めて行くことは、大切なことと実感した今回の訪問であった。重ねることによって、実際の様子が見え、そこから初めて互いの交流が始まる感覚だ。

プログラムは1日間にわたったが、日本の教育同盟総会とほぼ連日、開会礼拝から始まり、特別講演が続き、総会自体は、年間活動内容が確認されて40分を終了、閉会礼拝で散会した。

講演者の中には、厳しい時代を反映する教育の現状、また各校の学校運営の現状を報告するものもあり、参加者は皆、熱心にメモを取ったり、時間を取った。

参加者は70余名であり、教育同盟総会、学校代表者協議会の規模と比べて、大田で開催される



佐藤東洋士の講演
通訳は金文吉釜山外国語大学名誉教授

違った印象を受けた。また、欧米の慣習を取り入れているのか、参加者は御礼を伴った方々を少なからず見受けた。参加者の人数をほめて、このことから韓国基督教学校聯盟としての組織が十分に理解できない面もあった。

教育同盟からは、佐藤理事長が、「日本のキリスト教学校の課題」と題して講演を行った。教育同盟の組織と動きが、まさに日本のプロテスタント系キリスト教学校に、あつたため驚きを感じた。この点については、わたしたちが日頃、教育同盟の動きに足りなさを感しているとは違

た意見と視点であった。言わねば、教育同盟が教育の同盟としてこの機能をこれまで以上に發揮し、よき方向性を示し、折、佐藤理事長は、次のように別れを告げた。

「この時代、さまざまな困難が横たわっています。キリスト教学校の創立者清水安一牧師は、過去に誇りに受け止めては、これからの歩みに正しく生かしていくことを心がけてほしいと語りました。グローバルの流れの中で私たちができることは、互いの違いを受



「登録は、加盟校出身者、あるいは「キリスト者、求道者、教会に行っている方」に限りです。詳しくは教育同盟のホームページ「教職員を募集する方へ」↓「教職員就職支援登録について」をご覧ください。申込書がダウンロードできます(PDFファイル)。郵送希望の場合は、宛名記入の返用封筒、80円切手貼付を同封し、同盟事務局まで申し込んでください。

「登録は、加盟校出身者、あるいは「キリスト者、求道者、教会に行っている方」に限りです。詳しくは教育同盟のホームページ「教職員を募集する方へ」↓「教職員就職支援登録について」をご覧ください。申込書がダウンロードできます(PDFファイル)。郵送希望の場合は、宛名記入の返用封筒、80円切手貼付を同封し、同盟事務局まで申し込んでください。

「1冊といふ名のたからものキリスト教Q&A」小冊子刊行

本紙の4月号から12月号までの2年間にわたり、西南地区の学校の4名の聖書科教員が協力し協働して執筆して好評を得た「ハイ」ちのQ&A 16編を、一部語句修正のうえ、題名を「キリスト教Q&A」と改題して、小冊子として発行した。キリスト教入門書としてまた教職員の方々に多方面で活用いただきたい。

近日常加盟校宛に見本を送付するが、入手希望の方のために「2013年度キリスト教学校教職員支援の登録」の受付を00円。

キリスト教 Q&A

佐々木 栄悦 (聖光学院高等学校宗教主任)

愛ってなに？

Q 聖書が語る愛は、やさしさや男女の恋愛と違うのですか。

A 男女の恋愛や、日本語のやさしさとは違います。聖書の愛は神の愛に根拠をもっています。聖書は、「ここに愛がある」(ヨハネの手紙一 4章10節) といひ、キリストの十字架の出来事を指し示しています。十字架の上で、イエス・キリストは、愛するゆえに罪深い私たちの重荷をみずから担い、愛するゆえに私たちに赦してくださいました。このような十字架の愛が、キリストの愛を受け取った者たちを、他者を愛することへと促して参りました。

「花の日」に、花束と一緒に日頃の感謝の心を伝えることも、施設などでボランティア活動することも愛の働きです。しかし、愛はそればかりではありません。

迷いながらも、主の愛の教えに生きようとする人がいます。イエスさまの十字架の愛を受け止めて、人を愛するために立ち上がった人がいます。東日本大震災から一年ぐらい経ち、キリスト教学校教育同盟に加盟している学校の生徒1名と教師2名の方が、福島にある本校に来校されました。「祈りの心を伝える」ために自分の時間をささげ、足を運んでくださいました。目には見えない祈りの気持ちを伝えるにはどうしたらよいか生徒たちが話し合い、生徒全員で時間と労力をささげ、聖書を書き写し、それを持参していただきました。愛の業というのはこのように自分自身の思いを具体的な行動に移すことです。

Q 神の愛と人間の愛は同じなのですか。

A 人間の愛は、神の愛に基づいているものですが、神の愛とまったく同じものではありません。人間の愛は、愛する人とその対象によって、具体的な愛の行いが変わるからです。

二人の人が愛するゆえに何かをしたとしても、いつも同じとは限りません。たとえば、愛するゆえに生徒を厳しく叱ることもあれば、愛するゆえにおおらかな心をもって見守ることもあります。生徒の事情を察し、先生が判断して行うことです。単純にこれをしたら愛になり、これをしなかったら愛にならないなどといえないのです。私たちは、自由な決断と責任をもって愛することが問われます。(ヨハネの手紙一 4章11~12節)

愛は人から誤解されることもあるでしょうし、うまく伝わらないこともあるでしょうが、そのようなことを恐れて何もしないのではなく、神の愛に応え、祈りの中で御心(神さまが考えておられること)を求め、決断して自分の時間や労力や賜物をささげることです。

皆さんはキリストの愛にどうお応えになりますか。イエスさまもこう言っていて、私たちが愛の行いに一歩踏み出すのを待っています。

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイによる福音書25章40節)

Q もっと具体的に、簡単に教えてください。

A 教会学校やキリスト教学校で行われている

事務局だより
浅倉 またたく間に如月が過ぎ去る。この頃には関東でも、夏

半島に切り一面の菜の花の世界が広がっていき、優しく穏やかな雰囲気を醸し出す黄色い花と黄緑の葉っぱが海からの風にゆたゆたと揺れている。学校では、入試が終わったかと思うと、学年末を迎え、卒業式の季節となる。小さな学校も大きな学校もそれぞれ課題を抱えている。

- ＜総会・研究会等行事予定＞
- 6/7, 8 第101回総会(茨城キリスト教学校)
 - 15 第58回小学校教職員協議会(東洋英和女学院)
 - 7/27~29 第57回事務職員夏期学校(東山荘)
 - 29~31 第83回夏期研究会(東山荘)
 - 8/28, 29 第57回大学部会研究会(仙台市)
 - 29, 30 第7回事務職員部会研修会(中央事務職員研修会(3)(青山学院大学))
 - 10/3, 4 第8回事務職員部会研修会(キリスト教活動担当事務職員研修会(5)(恵泉女学園大学))
 - 11/9 第55回学校代表者協議会(恵泉女学園中学校・高等学校)
- ＜委員会・会議等予定＞
- 3/13 第6回広報委員会(教育同盟事務局)
 - 9/7 2013年度教研中央委員会(関西学院大学キャンパス)
 - 11/8 同盟、維持財団常任理事会(恵泉女学園中学校・高等学校)
 - 8 維持財団評議員会()
 - 8 同盟、維持財団理事会()
 - 8 理事・評議員、学校代表者協議会出席者有志懇談会()